

財務ハイライト

(百万円)

	連結		個別	
	H22年3月期 (第12期)	H21年3月期 (第11期)	H22年3月期 (第12期)	H21年3月期 (第11期)
売上高	911	1,012	835	737
営業損失(△)	△51	△67	△24	△36
経常損失(△)	△59	△72	△23	△46
当期純損失(△)	△55	△257	△45	△440
一株あたり当期純損失(△)(円)	△1,729.27	△8,007.59	△1,416.96	△13,736.84
総資産	1,129	1,186	1,126	1,139
純資産	1,022	1,092	1,018	1,064
一株あたり純資産(円)	31,839.58	33,568.84	31,744.42	33,161.38
営業キャッシュ・フロー	△113	58	—	—
投資キャッシュ・フロー	△77	△305	—	—
財務キャッシュ・フロー	—	—	—	—
現金・現金同等物 期末残高	345	536	—	—

- ◆ 個別キャッシュ・フローは記載しておりません。
- ◆ 連結において、売上高は不採算子会社の売却により前期比9.9%減。売上規模が縮小しましたが、営業損失・経常損失は一般的なコスト抑制の取り組みにより改善いたしました。当期純損失は前期比202百万円改善いたしました。(前期の主な純損失の原因は、子会社株式減損195百万円)
- ◆ 個別において、売上高は提案営業力強化、大型案件受注等により前期比13.3%増。営業損失・経常損失は売上規模が拡大しましたが、一部案件で当初収益計画を大きく下回り、黒字回復には至らず。当期純損失は前期比395百万円改善いたしました。(前期の主な純損失の原因は、子会社株式評価損372百万円)
- ◆ 借入金、社債はなく、無借金経営を継続しております。
- ◆ 自己資本比率は90.5%です。
- ◆ 上記の数値は、平成22年3月31日時点におけるものです。

会社概要 (平成22年3月31日現在)

商号 株式会社ビーマップ
 所在地 東京都文京区白山5丁目1番3号
 設立 平成10年9月4日
 資本金 1,854,247千円
 証券取引所 大阪証券取引所 ヘラクレス グロース
 従業員数 48名
 事業内容 コンテンツインフラ及びそれを活用した
 コンテンツの企画・開発・運営から構成されるモ
 バイルシステムインテグレーション事業

役員 (平成22年6月23日現在)

代表取締役社長 浅賀英雄
 取締役会長 杉野文則
 取締役 柴本猛、齋田真次郎*1
 監査役 籠浦光、平野彰*2、小林義典*2

*1 会社法第2条第15号に規定する社外取締役

*2 会社法第2条第16号に規定する社外監査役

関連会社 株式会社エム・データ

株主メモ

決算期 3月31日
 定時株主総会 6月
 剰余金の配当を行う株主の確定日 3月31日
 株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
 同事務取扱所 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒135-8722
 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 電話0120(288)324
 公告方法 当社のホームページに掲載しております。
<http://www.bemap.co.jp/>
 (但し、止むを得ない場合は日本経済新聞)

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	お取引の証券会社になります。	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベストアース証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意		電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は枠内の上記フリーダイヤルまでご連絡下さい。

第12期 事業報告書

平成21年4月1日 ▶ 平成22年3月31日

株主の皆様へ（浅賀社長メッセージ）

株主の皆様におかれましては、益々清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。
ここに第12期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

社長就任から2年が経過いたしました。就任時から、私の最大の任務は「早期の業績回復」であると認識しております。

当社は上場以来、株主の皆様のご期待に応えるべく業容の拡大に努めてまいりました。しかし、その事業拡大方針と体制整備の乖離が結果として毎年の損失計上に繋がっておりました。

私は就任後、その乖離原因の除去に努めるとともに、着実な業容拡大の路線の基礎を固めるべく、経営体質の改革に取り組んでまいりましたが、当期中は利益を残すには至りませんでした。

当社は、現在、携帯電話などのモバイル端末による移動者マーケティングにおいて「社会インフラ間クロスメディアのハブとなる」という新しいコンセプトを掲げて活動を開始しております。

現在、日本の経済環境は不透明な状況下にはありますが、私たちの目指すこの分野については未だ未成熟で推移していると考えております。

新たに進めている基盤を早急に整備し、積極的にこの分野の開拓に取り組み、業績の早期回復を行う所存です。

株主の皆様のご期待に応えられるよう、今後とも全力で事業に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

平成22年6月
代表取締役社長 浅賀 英雄



当期（第12期、平成22年3月期）の主な取り組みと実績

会社設立以来、ビーマップは交通機関を利用する人々の物理的な動線に着目し、サービスを提供するためのインフラを提供してまいりました。

そうした中で、当期はドライブポータルサイト『びあはーる』をパートナー企業4社と共同展開し、TVメタデータの速報データ配信を開始するなどの展開を行いました。しかしながら、一部の大型案件で、社内体制の整備が遅れたことにより外部委託コストが増加し、採算を圧迫いたしました。

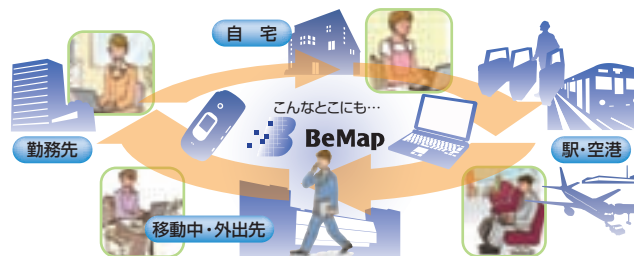
一方、不採算子会社2社を株式売却により整理するとともに、ビーマップ本体の営業力強化を行い、受注能力の拡大を図り、来期以降の機動的な環境づくりを整えました。

■ 平成22年3月期の主要アクション

平成21年 5月: JR上野駅で「秘密のケンミン館」を臨時開催
平成21年 7月: ドライブポータルサイト「びあはーる」をインターネット試行開始
平成21年10月: 連結子会社フォーマイスターズ・システムコンサルティング株式の株式売却
平成21年11月: Yahoo!JAPANへTVメタデータの速報データ配信を開始
平成21年12月: 連結子会社(株)インフォエックスの株式売却

■ ビーマップの事業ドメイン

移動者マーケティングにおいて、社会インフラと情報端末を結びつける仕組み・サービスを提供する



次期（第13期、平成23年3月期）のアクションプラン

事業面におきましては、引き続き、収益力の高い既存事業に注力するとともに、パートナー企業と連携した共同事業の企画などの新たな取り組みも行ってまいります。

管理面におきましては、堅実経営を徹底するとともに、以下の経営改善策を実施いたします。

- ① 提案営業力の強化による売上拡大と収益基盤の安定化
提案営業力の強化による売上拡大が不可欠であり、年間を通じた安定的な受注や運用案件の増加を目指します。既存顧客への新サービス提供やパートナー企業と連携した共同事業の企画展開などに取り組んでまいります。
- ② 人材強化を通じた技術力・品質管理力の向上
工数管理・進捗管理の徹底、効率的なテスト・出荷前検査などの実施を通して、社内スキルを向上することで、人材の強化に努めてまいります。また、豊富な経験を有する優秀な人材の採用も積極的に実施してまいります。
- ③ 投資における収益性管理
過去の新規事業・子会社等に対する投資の失敗を鑑み、投資の実行時の事業性審査を徹底いたします。投資実行後も継続的な収益管理を行うことで、不採算が続く事業に対しては、撤退・譲渡を含めた処理を実施いたします。

■ 物理的動線を意識した事業戦略

